

## 日本保健医療社会学会ニューズレター (No.111) 2019/1/10

### 目次

1. 第45回大会について
2. 30周年記念関係
3. 理事会報告
4. 編集委員会報告
5. 定例研究会の案内・報告 (関東)
6. 定例研究会の案内・報告 (関西)
7. 看護・ケア研究部会の案内
8. 渉外・国際交流活動の報告
9. 編集後記

---

【依頼】現在、学会誌の初期のバックナンバーを電子ファイル化する作業を進めておりますが、第3、4号が欠番となっております。お持ちの方は学会事務局までお知らせください。

### 1. 第45回大会・30周年記念大会の開催に向けて (大会実行委員会 大会長、田代理事)

第45回日本保健医療社会学会・30周年大会における学会は、2019年5月18日(土)、19日(日)の2日間において、東京都調布市にあります東京慈恵会医科大学医学部看護学科の国領キャンパスで開催いたします(大会長：中村美鈴教授)。また、本大会は学術集会を発足して30周年という節目の年でもあります。

大会テーマは、45年間の大会の歩みと現在を踏まえ、近接未来を切り拓いていくという背景から、「保健医療社会学の新たな視座」としました。本学会のホームページを10月末に開設しました。

主要プログラムは大会長講演に加え、特別公演では、「いのちの生成-ケアのケアを考える-」というテーマで、上智大学短期大学英文科の丹木博一教授にご講演いただきます。基調講演におきましては、日本福祉大学の山崎喜比古教授に「保健医療社会学に魅せられて-30年の歩みとこれから-」(予定)というテーマでご講演いただく予定です。

また、30周年記念シンポジウムは、「保健医療社会学の知の可能性：研究・教育・実践の未来」について皆様と探究し、保健医療社会学の鍵となるものを見出したいと思っております。さらに、編集委員会特別企画は「保健医療社会学論集のこれまでを振り返り今後展望する」という興味深いテーマになっています。30周年記念大会という意味で、充実したプログラムとなっております。演題応募は、一般演題(口頭発表・ポスター発表)ならびにラウンド・テーブル・ディスカッションともに、12月3日開始となっております。1月30日(水)締切りとなっております。募集期間は、例年と若干異なりますので、ご注意ください。詳細は、学会ホームページをご参照いただくと幸いです(HP：<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.html>)。

多くの会員の皆様の演題登録をお待ちしております。

### 2. 30周年記念関係 (三井理事)

2018年11月17日(土)に、関東定例研究会と看護・ケア研究部会の共催で、学会誌30年を振り返る機会を設けました。ここで報告者の一人として簡単に報告の内容をご紹介します。

今回は、大学院生である堀川英起さん（法政大学大学院社会学研究科）、三枝七都子さん（東京大学大学院新領域創成科学研究科）、木矢幸孝さん（法政大学大学院社会学研究科）とともに、事前に過去の学会誌に掲載された論文等の情報（著者名・所属・要旨など）をエクセルに入力してまとめました。その際、院生たちの感想が私には新鮮だったので（たとえば、第1号の特集が「看護と社会学」であったことは3人にとって驚きだったようです）、各自の研究や背景に基づいていくつかのテーマを選んでもらい、過去にどのように扱われてきたかを調べてもらうことにしました。

堀川さんは現職の看護学科助教として、「専門職の連携」がこの学会でどのように取り上げられてきたのかを探り、これが一貫して扱われてきたテーマであること、ただし内容は変遷していることを示しました。また、「教育」はほとんど扱われておらず、多職種連携という文脈のみであることも示しました。

三枝さんは、自身が理学療法士として働いており、富山型デイサービスの調査を重ねてきたことから、「福祉」「介護」「障害」というテーマがどう扱われてきたかを探り、どれも一貫して扱われてきているのだけれども、その内実は少しずつ変化していることを明らかにしました。また、「理学療法」などのテーマが全く扱われてこなかったことも確認しています。

木矢さんは、遺伝性の慢性疾患患者の聴き取り調査を行っていることから、「語り」や「経験」などがこの学会でどう扱われてきたかを探りました。その結果、この学会がこれらテーマを常に重視してきたこと、それも特に2000年以降は定期的に語りを用いた論文が生産されていることを明らかにしました。また、「遺伝・告知」があまり取り上げられていないことも確認しています。

報告後の議論では、研究会時代の書籍が扱ってきたテーマ（リストを田代理事が準備してくれました）も確認しながら、この学会が何を大切にしてきたのか、そしてどのような傾向があるのかを議論しました。その議論の中で明らかになったことは、私からすると次の三つの点です。第一に、この学会が常に、患者（あるいは病者／障害者／何らかの意味で苦しみの中にある人）の主体性や意味世界を重視しようとしてきたことです。第二に、そのことと不可分なのですが、「看護」「福祉」「医療」などの枠組みに囚われず、領域横断的に捉えかえたいという志向性を持つ人たちが集まっているらしいということです。第三に、先の二つの点と不可分のこととして、従来はどうしてもサービス提供者の視点が中心だったらしい、ということも見えてきました。近年、当事者視点を扱う議論も増えてきていますが、たとえば障害学などのような当事者学とはまだ大きな隔りがあるようです。これらのことは、医療や福祉のシステムが大きく変容しつつある今日において、この学会がしばしば抱える弱さを示すとともに、この学会が蓄積してきた財産が何かを指し示しています。財産を大切にしながら、新たな時代に向かい合っていければと思います。

次回大会の編集委員会主催シンポジウムでは、報告内容についてももう少し詳細を示す予定です。こちらは主に学会誌という媒体に関する議論となりますが、関心がおありの方はぜひ足を運んでください。

### 3. 理事会報告（2018年度第3回理事会議事録）（松繁理事）

日時：2018年12月8日（土） 14:02～17:15

会場：(株)国際文献社 アカデミーセンター 5階会議室

出席者：樫田会長、松繁理事、朝倉理事、三井理事、西村理事、小澤理事、伊藤理事、林理事、石川理事、中村大会長、佐藤大会事務局長、事務局 平野（記 国際文献社）  
欠席者：田代理事

## 1. 2018年度 前期予算執行状況（松繁）

松繁総務理事より添付資料次第の通り、2018年度前期の予算執行状況について報告があった。一般会計の雑収入については44回大会の黒字分の返金であること、一般会計支出の印刷製本費については論集1号のページ数が昨年度より少なかった為、予算額を下回る予定であるとの説明があった。園田基金の奨励賞賞金に関しては該当者がいなかったため、執行されていないことが伝えられた。

一般会計、園田基金ともに概ね予算通り執行していることが確認された。

## 2. 第45回大会について（中村、佐藤、伊藤）

中村大会長及び佐藤大会事務局長より添付資料次第の通り、進捗状況について報告があった。主要プログラム講師に関しては全て内諾済みであることが伝えられた。

中村大会長より開会の挨拶を樫田会長、閉会の挨拶を田代理事をお願いしたいとの依頼があり、樫田会長の了承を得た。

編集委員会企画の30周年記念シンポジウムに指定発言で登壇する藤村正之氏は、両学会の理事会で相互承認された福祉社会学会と保健医療社会学会との相互交流関係の中で人選がなされたという経緯があるため、所属先名称の後ろに福祉社会学会の文言を追加することとした。日程に関しては新旧合同理事会を大会前日の17時から19時で開催することとした。評議員会は前日に開催すると参加人数が少なくなる可能性があるため、大会1日目の12時半から13時半を第一候補に考え、委員会等と時間をずらしながら適切な時間で開催することとなった。1日目の開会挨拶を5分程度とし、全体的に時間を前倒しすることとなった。一般演題とRTDが15時からの場合、1日目の一般参加者数が少なくなる可能性があるとの意見があり、一般演題と基調講演の時間を入れ替え、RTDの一部は午前中にずらすこととした。

2日目の日程に関してはポスター貼付時間を9時半から11時半とし、ポスターセッションは11時40分から12時20分に変更することとした。開催校学長による講演に関しては1日目に組み込むことが困難な為、2日目（昼）でも対応可能かを学長に確認し、2日目の講演が難しいようであれば、1日目通常プログラム終了後の懇親会時にご挨拶をして頂くこととした。

予算案については30周年記念シンポジウムに関連する費用については、大会予算から支出することになっていたか園田基金から支出することになっていたかを樫田会長から田代理事へ確認することとなった。テーブル起こしは不要であるとの意見があり、予算から削除することとした。抄録編集アルバイト代70,000円を予算に計上し、アルバイトは伊藤理事紹介の学生に頼むことも可能であることが確認された。

学会本体からの運営補助費に関しては黒字であれば返済してもらおうが、赤字であった場合は返済を求めないことが確認された。

一般演題の申込が1月30日となっているが、これは例年より遅く、延長可能かどうか心配であるとの発言が理事からあり、延長は可能ではあるが期間は最大で一週間であることが回答された。

3. 30周年記念関連(大会内ブース、NL記事、HP展開) (伊藤・榎田・松繁ほか)

伊藤理事より園田前会長の写真と著書を置く予定であることが伝えられた。

榎田会長より以前に行った30周年記念アンケート等の集計結果パンフレットをブースに置いてはどうかとの意見があり、進めることとした。ブースにパネル(年表化された30年史を掲出の予定)と机を1台ずつ用意する為、それに関わる費用は大会校予算から切り分け、園田基金から支出することとした。

4. 編集委員会報告(朝倉・三井)

朝倉理事より添付資料次第の通り、10月に開催された編集委員会の報告があった。

45回大会時に開催する編集委員会主催シンポジウムについてシンポジストである小澤理事の副題より「かつて存在した」を削除することとなった。大会終了後、シンポジウムの内容を論集へ掲載しても良いのではないかと意見があり、誰が執筆するのか編集委員会で検討することとした。

5. 定例研究会の報告(関東)(田代・小澤)

小澤理事より添付資料次第の通り、1回目を10月に筑波大学において、2回目を11月に看護・ケア研究部会と共催の形で首都大学・東京において、開催した旨の報告があった。看護・ケア研究部会と共催した11月の定例研究会は30周年記念シンポジウムと連動しているため、ニューズレターに内容紹介を掲載しても良いのではないかと意見があった。ニューズレターに発表資料の全体を掲載すると膨大な量となるため、ニューズレター用の文を三井理事が執筆することとし、発表資料については適宜45回大会時に配布することを検討することとした。

6. 定例研究会の報告(関西)(伊藤・林)

伊藤理事より添付資料次第の通り、9月にキャンパスプラザ・京都において開催した旨の報告があった。

今回は3月頃を予定しており、詳細が決定次第、メールにて案内を配信することとした。

7. 看護・ケア研究部会の報告(西村)

西村理事より次回の定例会は1月12日を予定していることが伝えられた。詳細が決定次第、メールにて案内を配信することとした。

8. 渉外・国際交流活動の報告(石川)

石川理事より添付資料次第の通り、東アジア社会学会設立とリサーチネットワーク提案募集について報告があった。リサーチネットワークに関しては申請したことをニューズレターに掲載することとし、申請が通った後にメール配信にて報告することとした。

9. 園田賞選考委員会について

小澤理事が選考委員長として進めていくこととなった。

10. メール不達問題および『保健医療社会学論集』等のアーカイブ化について(松繁)

松繁総務理事より添付資料次第の通り、メール不達問題に関してハガキを発送したことによって配信エラー数が減少したとの報告があった。今後も、エラーが多くなった場合には対象者へハガキを送付することとした。

論集アーカイブ化については3~4号に書き込みがあるため、書き込みがないものを引き続き探すことが伝えられた。ニューズレターでも呼びかけることとした。4号に黒田会員の論文が掲載されていることから黒田会員に所在を確認することとなった。

#### 11. 事務局業務の相見積もりの進め方について (松繁)

松繁総務理事より添付資料次第の通り、他学会の相見積もり動向等について報告があった。医療系の複数の学会で相見積もり作業を行っていないこと、業務内容の標準化が難しいことから、相見積もりの金額の信頼性が十分とは言えないことが報告された。しかし、当学会では、2018年度総会において、2019年度総会時点までに、少なくとも事務局業務の業者委託については、相見積もりを実施する旨の方針提示がなされているため、松繁理事の報告内容を踏まえた会長報告を行う必要があることが確認された。

なお、事務局業務と編集業務等とで、委託業者が異なる学会もあるものの、そのような場合に、委託業者間での連携協調を誰が調整するのか、という点を考えると、単一業者に複数部門の業務委託をするメリットもある、との意見があった。

さらに、委託していた事業者が、学会支援業務から撤退したことにより、混乱が生じた学会もあることから、金額が安い事業者を選択するという判断は適切ではなく、事業の安定性が重要であるという意見もあった。会長からは、「相見積もり」においては、「当然に金額だけでなく、事業の安定性の見込み、業務改善に繋がる提案を実施する能力、等をも加味した総合的な選定をしていくことになる」だろうし、そのむね総会において発言していくことになるだろうということが主張され承認された。

#### 12. 国際文献社への事務委託契約について (松繁・朝倉)

朝倉理事より添付資料次第の通り、編集事務関連の委託について昨年度との変更点はないことが伝えられ、承認された。

編集以外の業務委託に関しては国際文献社の工場移転に伴い、学会専用の電話番号を用意できなくなる関係でダイヤルイン費用(月額800円)が発生しなくなることについて説明があり、承認された。

#### 13. 「保健医療社会学を学びたいひとへ」コーナープランについて (松繁・榎田)

松繁総務理事より添付資料次第の通り、他学会の状況についての報告と簡単な原案提示があった。

担当は松繁総務理事と西村理事とし、次年度予算案に費用を計上できるように見積をとることになった。

#### 14. 関連諸学会(「福祉社会学会」等)との連携・協力関係について (榎田・田代)

榎田会長より先方とも複数年にわたる交流で合意しているので、話し合い内容を次期に引き継ぐ必要がある旨の発言があり、承認された。他領域では、複数学会で定期的に合同大会を開く等の活動がされているので、検討してはどうか、という意見があった。とりあえずは、研

究活動委員会の引き継ぎ文書中に引き継ぎ内容を記載していくこととなった。

15. 第46回大会について (田代・伊藤)

45回大会時に研究活動委員会を開催し、確認することが伝えられた。

16. 名誉会員推挙について (松繁)

松繁総務理事より添付資料次第の通り、名誉会員推挙の候補について説明があった。今回は該当者なしとして進め、理事会終了後に推薦したい会員がいる場合には理事メーリングリストで審議することとした。

17. ニューズレター111号の配信について (西村)

西村理事より添付資料次第の通り、ニューズレター掲載内容について説明があり、12月21日を原稿締切とし、配信は1月10日頃となった。

18. 役員選挙について (榎田・松繁)

榎田会長より添付資料次第の通り、役員選挙に関する内規について、改訂の提案があった。当初案では、選挙において投票可能な対象をのみを拡大する提案であった(具体的には、被選挙権者のリストアップにあたって、現在の選挙年度会費の完納者でなければならない、という条件を、選挙前年度までの会費の完納者でなければならない、という条件に緩める内容の提案であった)。これに対し、選挙において投票する権利の所持者をも同様に拡大することが望ましいという意見が出て、結局、選挙権者においても被選挙権者においても、いずれにおいても、選挙前年度までの会費の完納者が該当する、という改訂方針が採用された(文言としては、選挙に関する内規中に一カ所「前」を加えるだけの改訂、となった)。

なお、松繁総務担当理事より選挙管理委員候補の打診状況に関して報告があった。慣例にのっとり、関東地方在住の会員という条件を満たしたうえで、総務担当理事が推薦した2名の候補に対し、選挙管理委員を委嘱することに関して、理事会としての承認をした。

19. 次期理事会への引き継ぎ事項について (榎田・松繁)

3月理事会時まで各委員会で引継ぎ文案をまとめ、理事会で審議することとした。

20. 学会事務局電話番号・FAX番号の変更について

国際文献社の工場移転に伴い、電話の基地局が変更となり、電話番号とFAX番号が変更になったとの報告があった。他学会と共有の電話番号になったことが伝えられた。

21. その他

松繁総務理事より新入会9名(通常会員)の承認依頼があり、承認された。

22. 次回の理事会日程

3月頃の開催で伝助にて調整することとした。

以上

#### 4. 編集委員会報告 (朝倉理事)

以下の2点についてお知らせいたします。

##### 1) J-Stageでの公開時期について

現在、保健医療社会学論集に掲載された論文がJ-Stageで公開される時期は、論集公刊の1年6か月後であり、他学会誌等に比べてJ-Stageでの非公開期間が長いのが現状です。そのため、論集29巻2号に掲載された論文から、J-Stageにおける論文の公開時期を論集公刊の1年後に変更することになりました。

##### 2) 第45回日本保健医療社会学会大会での編集委員会企画シンポジウムについて

2019年5月に開催される第45回日本保健医療社会学会大会では、編集委員会企画のシンポジウム「保健医療社会学論集のこれまでに振り返り、今後を展望する」を開催いたします。奮ってご参加くださいますようお願いいたします。企画趣旨や登壇者等については、大会広報をご覧ください。

#### 5. 定例研究会の案内・報告 (関東) (小澤理事、田代理事)

##### 1) 2018年度第1回定例研究会を開催しました。

日時：2018年10月14日(日) 14:00~16:00

場所：筑波大学・東京キャンパス 337教室

報告者：荒井浩道 (駒澤大学文学部)

タイトル：ナラティブ研究の有効性と課題——ナラティブ・ソーシャルワークをもとに考える

保健医療社会学会における研究方法として、ナラティブ研究は研究協力者の語り・ストーリーを重視しながら、インタビューデータの背後にある内的な世界を掘り下げて分析する研究方法として着目されてきている。ただし、ナラティブ研究が保健・医療・看護・福祉といった支援を重視する分野でどのような有効性と課題があるのかについてはこれまで十分に議論されてこなかった。そのため、ナラティブ研究をソーシャルワークに応用しながら研究と実践を進めている荒井浩道さんを講師に迎えて研究会を行った。

荒井さんからは著書「ナラティブ・ソーシャルワーク：「支援」しない支援の方法」(2014年、新泉社)の内容を紹介しながら、ナラティブ・アプローチの種類と内容について説明がなされた。さらに、ナラティブデータを用いたテキストマイニングによる実際の分析事例を紹介した報告がなされた。その後の参加者との意見交換では、参加者自身の研究におけるナラティブ研究の応用上の課題に関連する質問、意見が多く出され、活発な議論がなされた。当日の参加者は22名であり、看護学、理学療法学、作業療法学、社会福祉学などをバックグラウンドにした会員、大学院生が主な参加者であった。

##### 2) 2018年度第2回関東定例研究会／看護・ケア研究部会 共催公開企画を開催しました。

日時：2018年11月17日(土) 14:00~17:00

場所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス 会議室A・B

報告者：

三井さよ (法政大学社会学部)

堀川英起 (法政大学大学院社会学研究科)

三枝七都子 (東京大学大学院新領域創成科学研究科)

木矢幸孝 (法政大学大学院社会学研究科)

タイトル: 学会誌 30年からみる保健医療社会学の課題と展望

今回の研究会では、1990年から学際的な学会である本学会の学会誌として始まった『保健医療社会学論集』の30年分を振り返ることで、本学会がどのような社会的ニーズに応えてきたのか、日本における保健医療社会学の課題がどう変遷してきたのかを読み解くことを試みた。

初めに三井会員より、学会誌全体の傾向の俯瞰と専門職論の扱われ方、著者の所属に着目した分析が示され、引き続き堀川会員による「専門職の連携」及び「教育」に着目した分析が示された(三井会員の代読による)。さらに、三枝会員より、「福祉」「介護」「障害」というキーワードに着目した分析が、木矢会員より「語り」「遺伝・告知」に着目した分析が示された。

その後の討論では、初期から当学会に多く貢献をしてきた看護学や新たな近接領域としての障害学と保健医療社会学の関係、さらには、当学会における「社会学」の意味等について議論がされた。また、過去30年の議論が大きくは前半と後半に分けられるのではないかと、という問題提起があり、その違いが何によるものかについて議論された。具体的には、前半では保健・医療・福祉の統合や多職種連携が主たる研究テーマであったが、後半からは患者本人の語りや経験に着目した研究が多くみられるようになり、視点もマクロからミクロに移っているのではないかと、また、多職種連携についても病院や施設を中心とするものから地域に移行しているのではないかと、という指摘があった。ただし、これに対して、むしろ初期から当学会では患者や住民の「主体性」や「当事者性」を重視する点では一貫しており、それゆえに細分化された専門領域を超えて学際的な研究が求められてきたのではないかと、という指摘もなされた。会員15名の参加があり、活発な議論が行われた。

## 6. 定例研究会の案内・報告 (関西) (伊藤理事・林理事)

1) 2018年度第1回関西定例研究会を開催しました。下記の通り報告します。

日時: 平成30年9月2日(日) 14:00~16:00

場所: キャンパスプラザ京都

テーマ: 経験の固有性を理解するー『遺伝学の知識と病の語り』を中心にー

発表者: 前田泰樹 (立教大学)

要旨: 前田氏からは、常染色体優性多発性嚢胞腎 (ADPKD) の患者や家族、またその治療やケアにかかわる医療者たちを対象に2003年から継続的に行ってきたEMCA(「エスノメソドロジー」 Ethnomethodology と「会話分析(相互行為分析)」 Conversation Analysis)研究を題材に、保健医療社会学的EMCAの可能性についてご報告いただいた。EMCAは計量分析や既存の概念によって操作的に定義づけられた概念との比較連関を反映した理論を作るものというより、病者や実践家がどのような行為や経験をしているのかの記述に関心がある方法であり、それぞれの実践の参加者の問題への対峙の仕方、すなわち「人びとの方法論」に着眼して明らかにしていく方法である。

ADPKDの当事者を対象にしたEMCA研究では、また人びとの問題の理解の仕方、いわば枠組み自体が、人びとの実践の経験を通して流動的に書き換えられていくこと、個別的な経験と

しての語りにある問題の発見に価値がありつつ、患者の語りからは「多かれ少なかれ、皆言われていることは一緒だ」のように、一定の普遍性を志向しており、これはまた他人の経験と重ね合わせて普遍性の理解となること、また専門的知識を参照することによって、自らの個別的な経験が理解できるようになるなど、何らかのカテゴリーを頼ることなど、時代によって知識体系そのものも変化を伴ってきたADPKDの「人びとの方法」との固有性についてご報告頂いた。その後、方法的妥当性や課題解決型の研究としてのEMCAの可能性について意見交換がなされた。参加者は17名。

2) 2018年度第2回関西定例研究会を下記の通り開催いたします。

日時：2019年3月21日(木・祝) 14:00~16:30

場所：神戸市立婦人会館 (JR神戸駅/市営地下鉄大倉山駅下車)

<https://kobe-fujin.jimdo.com/>

報告：「医療専門職の働き方と連携—イギリスからの示唆—」

報告者：白瀬由美香さん(一橋大学大学院社会学研究科)

報告概要：本報告では、過去20年間で医療専門職の大幅な労働時間短縮を実現したイギリスを事例として、その背景と医療専門職の働き方や連携のありかたの変化について検討を行う。イギリスでは1998年からEU労働時間指令が国内法に反映され、一部の適用除外は認められていたものの、週48時間以内の労働、24時間につき連続11時間の休養、7日間につき連続24時間の休養、年間28日間の有給休暇などが医療専門職にも適用されることになった。また、同時期には外国人の医療専門職が増加し、医薬品の処方権を拡大するなど医師から他の職種へのタスク・シフティングも見られ、さらには補助職資格の新設も進められた。こうした変化がイギリス医療に何をもたらしたのかを踏まえ、日本への示唆を議論する場としたい。

## 7. 看護・ケア研究部会(西村理事)

第4回定例研究会を下記の通り開催いたします。

日時：2019年1月12日(土) 13:30-17:00

場所：首都大学東京 荒川キャンパス 4F 463教室

報告者1：齋藤貴子さん(日本赤十字秋田看護大学/首都大学東京大学院博士後期課程)

「整形外科病棟におけるいつもの看護実践(トイレ介助)」

報告者2：萩野貴美子さん(星槎大学客員研究員)

「教員と看護師が協働で行う授業実践報告」

## 8. 渉外・国際交流活動の報告(石川理事)

東アジア社会学会"Sociology of Health"リサーチネットワークについて

2017年10月、東アジア社会学会(East Asian Sociological Association =EASA)が設立されましたが、これを記念して第一回設立大会が2019年3月に日本で開催されます。

<http://easa.sakura.ne.jp/easa2018/inaugural-congress/>

この東アジア社会学会では、リサーチネットワーク(Research Network=RN)が研究活動の単位となります。RNは、類似の研究関心を持つ研究者の組織です。学会大会は、それぞれのRNが主体となってセッションを形成し、発表を運営する方式で行われます。

このRNとして、この度"Sociology of Health"が設置されました。これは、ISAで"Sociology of Health"のRC代表の細田満和子(星槎大)を代表、本学会の国際交流委員会の武藤香織(東京大)を世話人として、同委員会から石川ひろの(帝京大)、金子雅彦(防衛医大)、竹中 健(九州看護福祉大)ほか、日本、韓国、台湾、バングラディッシュ、ベトナム、タイ、フィリピンからの賛同者を集めて申請し、承認されたものです。

これにより、2019年3月8-9日に開催されるAnnual MeetingにRNとして2つまでセッションを持てることになりました。演題登録の締切は、12月31日です、登録の際、RNの指定が必要ですが、"Sociology of Health"を指定して頂くことが可能になりました。(ウェブサイトでは、まだRNのリストは更新されておらず、掲載されていませんが、大丈夫です)

<http://easa.sakura.ne.jp/easa2018/call-for-participation/>

締め切り間近ではありますが、ぜひ本学会からも多くの演題登録をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

## 9. 編集後記 (西村理事)

- ・ニューズレターvol.111は、主に2018年度第3回理事会で議論された内容を掲載いたしました。
- ・日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはPDFファイルのメールマガジン形式で配信しています。メールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局まで御連絡ください。

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

発行：日本保健医療社会学会

編集：広報担当 (西村ユミ)

学会事務局：東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

[jshms-office@bunken.co.jp](mailto:jshms-office@bunken.co.jp)

TEL：03-6824-9375